

諫早市文化財調査報告書 第10集

# 有 喜 貝 塚

—動物遺存体—

1988. 6

諫 早 市 教 育 委 員 会



## 発刊のことば

長崎県考古学発祥の地である有喜貝塚は、大正14年に京都帝国大学の浜田耕作博士により調査がなされ、歴史的・学術的に重要な位置を占めている遺跡です。

この貝塚は横湾に臨む台地上にあり、天草灘を介して遠く鹿児島などの諸邑と交流した形跡を示す土器などが発見されています。海を媒介とした交流の範囲は私たちの想像を超えるほど広く、壱岐・対馬から朝鮮半島にまでその痕跡を追うことができます。

これらの出土品を見るとき、海原に舟を漕ぎ出し、山野を跳梁した人びとの姿が彷彿とします。

考古資料は、物をして往時の生活の在り方、他地域との交流の状況、文化の発展過程を知るための貴重な遺物であり、これらを包蔵する遺跡は更に重要なものです。これら重要な遺跡を後世に残し伝えることは私たちに課せられた大なる責務と考えております。

本報告は、昭和58年度に「六本松地区急傾斜地崩壊対策工事」に伴い、緊急調査を実施し、出土した遺物のうち未報告分であった動物遺存体に関する報告であり、本報告で有喜貝塚に関する報告が完結を見ました。

報告書作成にあたりましては、同定・分析から原稿作成までの任に当たっていただきました名古屋大学 渡辺誠先生をはじめ、研究室の皆さまに衷心より厚くお礼申し上げます。

本報告書が、文化財保護の一助となり、謙卑の歴史を解明する先鞭となれば、望外の喜びとするところであります。

昭和63年6月1日

謙卑市教育長 西原 英彦

## 例 言

1. 本書は、昭和58年度に調査を実施した有喜貝塚出土遺物のうち、動物遺骨体に関する同定・分析の結果報告書である。
2. 同定・分析作業に関しては、名古屋大学文学部助教授 渡辺誠先生にその任に当たっていただき、同定・分析結果についての玉稿を賜わった。
3. 本書掲載の表・挿図・図版のうち、下記に示すものを除いて、すべて渡辺誠先生の作成によるものである。

第2図（論文報第5集より転載）

図版6（ # ）

4. 本書の編集は秀島が行った。

# 本文目次

発刊のこぼ

例言

諫早市有喜貝塚の動物遺体 .....	1
1. はじめに .....	1
2. 魚類 .....	1
3. 哺乳類 .....	2
4. 骨角等 .....	3
5. おわりに .....	3

# 表目次

第1表 資料一覧表 .....	6
第2表 動物遺体種名一覧表 .....	7
第3表 魚骨数量表1 .....	8
第4表 魚骨数量表2 .....	9
第5表 脊椎骨による魚類構成比 .....	10
第6表 魚鱗数量表 .....	11
第7表 ウニ類数量表 .....	11
第8表 クジラ類数量表 .....	12
第9表 イルカ類数量表 .....	12
第10表 イノシシ部位別数量表 .....	13
第11表 イノシシ上顎骨・下顎骨および遊離歯一覧表 .....	14
第12表 シカ部位別数量表 .....	15
第13表 シカ上顎骨・下顎骨および遊離歯一覧表 .....	16
第14表 小動物部位別数量表 .....	16
第15表 小動物下顎骨一覧表 .....	17
第16表 陸棲哺乳類遺体の検出頻度 .....	17
第17表 骨角器一覧表 .....	18

## 挿 図 目 次

第1図 骨角器実測図 .....	4
第2図 骨角牙器・貝輪（論文報第5集より転載） .....	5

## 図 版 目 次

図版1 骨角器および動物遺体1	
図版2 動物遺体2	
図版3 動物遺体3	
図版4 動物遺体4	
図版5 動物遺体5	
図版6 骨角牙器・貝輪（論文報第5集より転載）	

## 諫早市有喜貝塚の動物遺体

### 1. はじめに

天草灘に連なる横湾に臨む本貝塚は、古く大正14年に浜田耕作氏等によって発掘され、全国的にも著名な縄文時代の貝塚である(浜田他1925a・b)。そして昭和57年に至り急傾斜地崩壊対策事業に関連して、諫早市教育委員会によって第2回目の発掘調査が実施された。その報告書もすでに刊行されている(秀高他1984)。貝塚を特徴づける動物遺体については、貝類についてのみそのなかで山本愛三氏によって詳細に報告されている。今回筆者に調査の機会を与えられたのは、その貝類を除いた動物遺体についてである。

それらの資料は、貝層などからの発掘資料(A)と、ブロック・サンプリング資料(B)とに大別される。そしてそれらの地区・層位と、含まれる遺物名との関係は、第1表に示すとおりである。

またそれらの所属時期は、報告書によれば縄文時代後期前葉と同中葉、および両者と中期をも含む攪乱層とに区分される。それらと資料番号との関係は、次のとおりである。

後期前葉 11~14, 18, 19, 26~30, 32,

後期中葉 16, 17, 31,

攪乱層 1~10, 15, 20~25, 33,

それらより検出された動物遺体の種名は、第2表に示すとおりである。主体をなすのは哺乳類と魚類である。次にその検討結果を記す。

### 2. 魚類

魚類は18種が検出されている。それに不明種を加えて検出部位の数量を、貝層などからの発掘資料と、ブロック・サンプリング資料とに分けて記すと、第3・4表のとおりである。

そのなかで多いのは、サメ目・マイワシ・カタクチイワシ・マアジ・ベラ科・マサバなどである。

サメ目には椎径2~4cmの1群(図版2-1・2)と、数mmの小型の1群(図版1-11)とがみられる。前者は貝層などからの発掘資料、後者はブロック・サンプリング資料にのみみられる。前者には不明種の1群(同1)が多く、1点のみネズミザメ科(同2)がある。すでに報告されているサメの歯の垂飾は、このネズミザメ科の1種であるアオザメの右上顎の歯に穿孔されたものである。小型の種類は沿岸性のものとみられるが、大型のネズミザメ科などは外洋からの侵入か、外洋で捕獲されたものであろう。

ニシン科のマイワシやカタクチイワシ(図版1-12~20)は、本貝塚においてももっとも比率の

高い種類である。ブロック・サンプリング資料では54~93%を示し、特に脊椎骨の絶対数の多い資料では70%を下らないほどである(第5表)。これらは近海の上層を遊泳する種類である。

マアジも同様に近海を遊泳する種類であるが、根つきの習性もある。なおマアジに特徴的な種鱗も検出されている(第6表、図版1-22・23)。

ペラ科には多くの種が含まれるが、主に沿岸海域に棲む種類である(同26、図版2-10)。

マサバも沿岸海域に棲む種類であり、根つきの習性も強い(図版1-27~29)。

以上の諸種はサメ目の一部を除き、沿岸海域において捕獲できる小型魚類という共通した特徴がある。

貝塚から環境復元を行った山本愛三氏は、当時の河川堆積物は現在より多くはなく、本貝塚西方の平野には大きく広がった内湾が展開し、その外側の外洋はほとんど岩礁性海岸であったと考察している(山本1984)。貝類は、内湾性二枚貝のマガキ・オキシジミ、岩礁性巻貝のイシダミ・オオコシダカガンガラ・スガイなどが多い。

この山本氏による水域環境とマイワシなどの魚類相とはよく対応しており、これらの魚類を内湾において、網漁などで捕獲したことが推定される。そして外洋より大型サメ類・ソウダガツオ類(図版2-11)・カジキ類(同12)・マグロ類(同13)などが侵入したか、外洋での漁獲が行われたことも推定される。1点のみ出土している単式釣針は、後者との関連において注目される資料である。

また山本氏は、縄文時代後期前葉と同中葉との間に大きな環境の変化はなかったとも記しているが、魚類においても同様に変化は認められない(第5表)。

なおアカウニとパフンウニの殻片・棘・中生骨・上生骨・顎骨などが検出されている(第7表、図版1-3~10)。岩礁性海岸で貝類とともに、ウニ類も採集されていたことを示している。

### 3. 哺乳類

哺乳類には、陸棲哺乳類5種と海棲哺乳類2種とが含まれている(第2表)。

海棲哺乳類の2種はクジラ類とイルカ類であり、その検出数量は第8・9表に示すように少量であるが、上記のような外洋水の影響の強い本貝塚の環境をよく示しているといえよう(図版3-1~3)。

陸棲哺乳類の5種は、大型動物のイノシシ(図版4)とシカ(同5)、小型動物のクヌギ・アナグマとイヌ(図版3-4~10)である。いずれも縄文時代の重要な食料源であったばかりでなく、イヌは狩猟犬としても重要であった。

またそれらの骨角は骨角器の素材としても重要であったし、本貝塚においてもそれらの好資料が出土していることは、すでに報告されておりである(秀島健1984)。また今回の検討でも2点の追加がみられた。それらについては次項において記す。

5種の検出部位と数量は、第10～16表に示すとおりである。それらの構成比を出現頻度（第16表）でみてみると、シカがもっとも多く52%を占めている。これに次ぐのはイノシシで39%を占め、これら的大型動物のみで全体の9割を占めているのである。

以上の他に、カエル類の脊椎骨1点、ヘビ類の脊椎骨2点、および鳥骨少量が検出されている。

これらの動物質食料と、ドングリ類などの植物質食料とによって、本貝塚の縄文人の食生活が維持されていたものと考えられる。

#### 4. 骨角器

骨角器は本報告書において25点報告されており、その素材についても報告されている。それらには加工痕または切痕のみられるのものも含まれている。しかしその一部には熟成もみられるので、再検討を行った。その結果は新発見資料も含めて、第17表に示すとおりである。新資料は、骨角器2点と、加工痕または切痕のみられるもの4点である。後者については表中で記すに留める。

骨角器の2点はいずれもへら状製品である。

第1資料は、資料番号11（C区田層、後期前葉）中に混じていたものである。シカの左尺骨の体部を切断し、上下両面より磨いて刃部を作り出している。また近位端寄りも切断しており、手のひらに入る大きさにしていると推定される。全長10.6cm、幅2.3cm、厚さ2.3cmで、刃幅は1.4cm、厚さ0.4cmである（第1図1、図版1-1）。

第2資料は、資料番号20（E区表土、攪乱層）中に混じていたものである。シカの中足骨あるいは脛骨の体部を裂いて切断し、上下両面より磨いて刃部を作り出している。刃部の大部分も欠損している。残存長8.1cm、幅2.0cm、厚さ0.6cmである（同2、同2）。

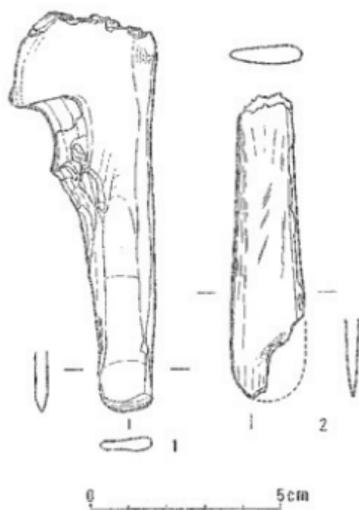
#### 5. おわりに

長崎県を中心とする西北九州の縄文時代の漁業は、朝鮮半島南海岸と緊密な関係にあったことが近年しだいに明らかになりつつある（渡辺1985）。しかしそれらは主として漁具の研究にもとづくものであり、捕獲対象動物の研究はまだ不十分な段階にある。両者の統合化が目下の重要な検討課題なのであり、これらの資料がその一助となれば幸いである。

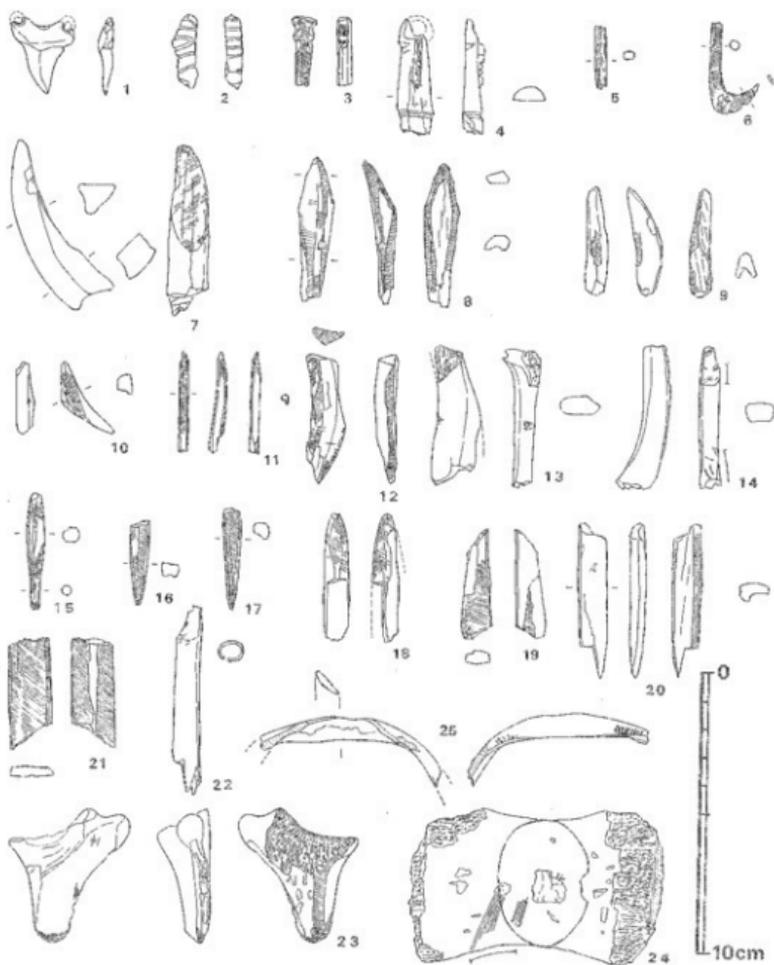
おわりに当り、調査の機会を与えて下さった諫早市教育委員会の秀島貞康氏、種々ご教示を賜った国立科学博物館の上野輝弥先生、豊長郡研究所の毛利俊雄先生、および資料の整理・検討にご協力くださった名古屋大学文学部学生の内藤多佳彦・久保和士・田中操子・鈴木元氏に、衷心より謝意を表する次第である。

〈引用文献目録〉

- 浜田耕作他, 1925a: 肥前国有喜貝塚発掘報告・上。人類学雑誌, 41-1, 1~14頁。東京。  
——他, 1925b: 肥前国有喜貝塚発掘報告・下。人類学雑誌, 41-2, 79~93頁。東京。  
秀島貞康他, 1984: 有喜貝塚。諫早市文化財調査報告, 8。諫早。  
山本愛三, 1984: 長崎県・有喜貝塚の貝類より見た考察。諫早市文化財調査報告, 8, 69~77頁。諫早。  
渡辺 誠, 1985: 西北九州の縄文時代漁撈文化。列島の文化史, 2, 45~96頁。東京。



第1図 骨角器実測図



第2図 骨角牙器・貝輪(論文報第5集より転載)

第1表 資料一覧表

類別	資料番号	地区	層位	遺物名						
				ウニ類	魚骨	魚鱗	カエル類	ヘビ類	鳥骨	獣骨
A、貝層などからの発掘資料	1	A区	I層		○				○	○
	2	A区	III層							○
	3	E区	表土		○				○	○
	4	B区	II層		○					○
	5	B区	III層		○					○
	6	B区	IV層		○					○
	7	B区	V層		○				○	○
	8	B区	VI層		○					○
	9	C区	表土		○					○
	10	C区	II層							○
	11	C区	III層		○				○	○
	12	C区	IV層		○					○
	13	C区	V層		○					○
	14	C区	VI層		○					○
	15	D区	表土							
	16	D区	I層		○					○
	17	D区	II層		○					○
	18	D区	III層		○					○
	19	D区	Pit内		○					○
	20	E区	表土		○				○	○
	21	E区	I層		○					○
	22	E区	II層		○					○
	23	E区	III層		○					○
B、ブロック・サンプリング資料	24	A区	III層	○	○	○				○
	25	B区	V層	○	○	○	○			○
	26	C区	III層1	○	○	○				○
	27	C区	III層2	○	○	○				○
	28	C区	IV層1	○	○	○				○
	29	C区	IV層2	○	○	○				○
	30	C区	V層	○	○	○	○			○
	31	D区	II層1	○	○	○				○
	32	D区	III層2	○	○	○		○		○
	33	E区	III層	○	○	○				○

第2表 動物遺体種名一覧表

棘皮動物門 ECHINODERMATA

海膽類 ECHINOIDEA

1. ラッパウニ科アカウニ
2. ナカウニ科ムラサキウニ

*Pseudocentrotus depressus* A.GASSIZ  
*Anthocardis crassispira* A.GASSIZ

脊椎動物門 VERTEBRATA

魚類 PISCES

軟骨魚綱 CHONDRICHTHYES

1. ネズミザメ科
2. サメ目

*Lamna ditropis* HUBBS et FOLLETT  
*Pleurotremata* sp.

硬骨魚綱 OSTEICHTHYES

1. ニシン科マイワシ
2. ニシン科カタクチイワシ
3. ボラ科ボラ
4. スズキ科スズキ
5. アジ科マアジ
6. イサキ科イサキ
7. タイ科マダイ
8. タイ科クロダイ
9. ベラ科
10. メカジキ亜目の1種
11. サバ科マサバ
12. ソウダガツオ属の1種
13. マグロ属の1種
14. フサカサゴ科メバル
15. カワハギ科カワハギ
16. フグ科の1種

*Sardinops melanosticta* TEMMINCK et SCHLEGEL  
*Engraulis japonica* HOUTTUYN  
*Mugil cephalus cephalus* LINNAEUS  
*Lateolabrax japonicus* CUVIER  
*Trachurus japonicus* TEMMINCK et SCHLEGEL  
*Parapristipoma trilineatum* THUNBERG  
*Pagrus major* TEMMINCK et SCHLEGEL  
*Acanthopagrus schlegelii* BLEEKER  
 Labridae sp.  
 Xiphioidae sp.  
*Scomber japonicus* HOUTTUYN  
 Auxis sp.  
 Thunnus sp.  
*Sebastes inermis* CUVIER  
*Stephanolepis cirrhifer* TEMMINCK et SCHLEGEL  
 Tetraodontidae sp.

両生類 AMPHIBIA

爬虫類 LEPTILIA

鳥類 AVES

哺乳類 MAMMALIA

鯨目 CETACEA

1. クジラ類
2. イルカ類

Cetacea sp.  
 Delphinoidea sp.

食肉目 CARNIVORA

1. イヌ科ニホンイタ
2. イヌ科クヌギ
3. イタチ科アナグマ

*Canis familiaris* var. *japonicus* TEMMINCK  
*Nyctereutes procyonoides* GRAY  
*Meles meles* LINNAEUS

偶蹄目 ARTIODACTYLA

1. イノシシ科イノシシ
2. シカ科ニホンジカ

*Sus scrofa leucomystax* TEMMINCK  
*Cervus nippon nippon* TEMMINCK



第4表 魚骨数調査表2 (ブロック・サンプリング資料)

種名	部位	時期		後 期			前 期			後 期			総計
		資料番号	26	27	28	29	30	32	31	24	25	33	
サメ目	歯									1		1	2
	脊椎骨	3				2				3		1	9
マイワシ	主上顎骨	ℓ	2					2					5
		r	4					1			2	1	8
	歯	r	1										1
	関節骨	ℓ	1								1		2
		r	3		1			1					5
	主総蓋骨	r	1										1
	第1脊椎骨		30	1	1		1	2	1	9	1	6	52
	第2脊椎骨		26	1	5		3	6	1	3	2	15	62
ガクナワシ	脊椎骨			1					2			12	
ニシン科	脊椎骨		737	66	128	6	293	234	69	343	193	544	2613
	尾部棒状骨		10					4	3	1	3	2	5
ボラ	主総蓋骨	ℓ										1	1
スズキ	前上顎骨	ℓ									1		1
マアジ	歯	ℓ	1										1
	脊椎骨		26	2	1	1				7	1	9	47
イサキ	脊椎骨						3						3
クロダイ	前上顎骨	r								1			1
タイ科	主上顎骨	r								1			1
	脊椎骨									1			1
ペラ科	前上顎骨	ℓ			3		1						4
		r	1		3					1	1		6
	主上顎骨	r							1	2			3
	歯	ℓ									1	1	2
		r										1	1
	関節骨	ℓ			1	1			1				4
		r		1					1				2
	上咽頭骨	ℓ							1				1
		r								1			1
	下咽頭骨		1		1		2	2	2	2		1	11
主総蓋骨	r										1	1	
マサバ	脊椎骨		5	27	23	3	6	18	13	29	30	34	136
	尾部棒状骨				1								1
	前上顎骨	ℓ								1	1		2
ソウダガツオ属	歯	r			1							1	2
	歯	r			1							1	2
ノバル	歯	r			1							1	
カワハギ	背鰭第1軟						1						2
フグ科	下咽頭板	ℓ								1			1
	前上顎骨	ℓ									1		1
不 明	主上顎骨	r									1		1
	関節骨	ℓ								1	1		2
		r			1								1
	脊椎骨		17	9	7	1	12	16	7	35	21	33	158
尾部棒状骨				1		1	2		1	2	1	8	
脊椎骨統計			854	107	185	11	320	281	93	457	254	670	3232

第5表 脊椎骨による点頭構成比

時期 資料番号 種別	後 期						新 築						既 存						合 計			
	25		26		27		28		29		30		31		32		33		34		35	
	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%
アイワシ	3	0.25	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.38
オオクマノシ	78	32.86	1	0.04	6	2.43	0	0	54.55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ニシキ	17	6.88	1	0.04	12	4.88	0	0	72.43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マフジ	26	10.4	2	0.8	1	0.4	1	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イサキ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クマノシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ベラ	5	2.0	27	10.8	33	13.2	3	1.2	27.27	6	2.4	13	5.2	29	11.6	30	12.0	29	11.6	34	13.6	6.13
マサバ	10	4.0	0	0	10	4.0	0	0	5.41	0	0	5	2.0	2	0.8	6	2.4	24	9.6	19	7.6	2.35
ツグツグ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.4	0	0	0.03
平 明	17	6.8	9	3.6	7	2.8	1	0.4	9.09	12	4.8	16	6.4	7	2.8	35	14.0	7	2.8	35	14.0	4.89
總 計	254	100.00	107	100.00	105	100.00	11	100.00	320	100.00	281	100.00	99	100.00	457	100.00	254	100.00	457	100.00	322	100.00

第6表 魚鱗数量表

種名	時期 資料番号	後 期 前 葉				攪 乱 層			総計
		26	27	28	30	24	25	33	
アジ科鱗鱗		7	2	1	3	2	4	1	20
不 明		1	1						2

第7表 ウニ類数量表

種名	部位	時期 資料番号	後 期 前 葉						後期中央			攪 乱 層			総計
			26	27	28	29	30	32	31	24	25	33			
アカウニ	殻 板											1			1
	棘		8	3	6	4	3	1	2	16	7	9			59
バワンウニ	殻 板				4										4
	棘				1										1
不 明	口	殻 板			4	7	2	2		6	1	2			24
		棘	2		2			1			1	2			8
	器	中生骨			2	2		1		2					7
		上生骨	ℓ			2									2
		顎 骨	ℓ		3	33	65				4	1	1		107
			r	1	4	47	48		2		3		2		107
		不明		1		5								6	
	歯				2									2	

第8表 クジラ類数量表

部位	時期 資料番号		後期前葉				後期中葉		攪乱層			計
	11	12	13	18	16	2	3	5	7	20		
脊椎骨破片	1	1		1	1	1	2	1	5	2	15	
肋骨破片	1										1	
不明破片			2						1	3	6	

第9表 イルカ類数量表

部位	時期 資料番号		後期前葉			後期中葉		攪乱層	統計
		r	12	13	30	16	17	20	
肩甲骨		r				1			1
脊椎骨			1	2	1	1	1	1	7

第10表 イノシシ部位別數量表

部位	時期 資料番号	後期前葉					後期中葉					攪 乱 層					總計	
		10	11	12	13	18	16	17	1	3	5	7	8	9	15	20		21
頭頂骨+後頭骨																1		1
上 顎 骨	ℓ						1											1
	r											1						1
上顎遊離歯							1							1	1			3
下 顎 骨	ℓ		1					2										3
	r		4	1				3	1				1					10
下顎遊離歯			3	2		1		2	2			3				1		15
上 腕 骨	ℓ						1									1		2
	r			1							1							2
橈 骨	ℓ		1					1										2
	r								1					1				2
尺 骨	ℓ				1											1		2
	r		1			1												2
第3中手骨	ℓ									1								1
	r											1						1
第4中手骨	ℓ	1																1
第5中手骨	r								1		1							2
寛 骨	ℓ		1					1								1		3
	r		1															1
大 腿 骨	ℓ				1													1
脛 骨	ℓ		1															1
腓 骨	r									1								1
距 骨	ℓ		1	1						1						1		4
	r		1				1		1									3
踵 骨	ℓ							2		1		1						4
第2中足骨	ℓ		1							1								2
基 節 骨									1		2							3
中 節 骨											1							1
末 節 骨									1									1
環 椎											1							1
軸 椎																1		2
頸 椎		1																1
腰 椎											1							1
仙 骨																1		1

表11表 イノシシ上顎骨・下顎骨および遊離歯一覧表

(歯式中Iは門歯、Cは大歯、Pは小白歯、Mは大臼歯を示す。  
またカッコを付したものは歯が脱落していることを示し、～はその範囲を示す。×は未萌出を示す。第13・15・16表も同じ。)

上・下	時期	資料番号	歯式	
			r	ℓ
			M <sub>3</sub> M <sub>2</sub> M <sub>1</sub> P <sub>1</sub> P <sub>2</sub> P <sub>3</sub> C I <sub>2</sub> I <sub>1</sub>	I <sub>1</sub> I <sub>2</sub> I <sub>3</sub> C P <sub>1</sub> P <sub>2</sub> P <sub>3</sub> M <sub>1</sub> M <sub>2</sub> M <sub>3</sub>
上顎骨	後期中葉	17		M <sub>3</sub>
	擾乱層	8	(P <sub>2</sub> ~ C)	
下顎骨	後期前葉	11	(I <sub>2</sub> )I <sub>1</sub>	(I <sub>1</sub> I <sub>2</sub> )
		12	M <sub>3</sub> M <sub>2</sub> M <sub>1</sub> P <sub>1</sub> P <sub>3</sub>	
	後期中葉	17	(C ~ I <sub>2</sub> )I <sub>1</sub>	I <sub>1</sub> I <sub>2</sub> (I <sub>2</sub> C) ♂
			M <sub>3</sub> M <sub>2</sub> M <sub>1</sub> P <sub>1</sub> P <sub>3</sub> (P <sub>2</sub> )	
上顎遊離歯	後期中葉	17		1 ♀
	擾乱層	15	1	
		20		1
下顎遊離歯	後期前葉	11		1 2 (1 ♂, 1 ♀)
		12	1	1
		18		1
	後期中葉	17		1 1
	擾乱層	1		1 1 ♂
		7		1 1
		20		1 ♂
		33		1 ♂

第12表 シカ部位別数重表

部位	資料番号	後期前葉					後期中葉			挽 亂 層									總計			
		10	11	12	13	18	19	16	17	31	1	3	4	5	7	9	15	20		21	23	33
後 頭 骨																		1				1
側 頭 骨	r		1					1	1													3
角			1					2		1								3				7
上 顎 骨	r															1		1				2
下 顎 骨	l						1									1						2
	r		1																			1
下顎遊離齒								2	2						1							5
肩 甲 骨	l										1						1					2
上 腕 骨	l		1					1														2
	r								1									1				2
桡 骨	l						2			1		1										4
	r						1				2							1				4
尺 骨	l	1																				1
手 根 骨	l		1					3														4
	r		1																			1
中 手 骨	r											1					1					2
	?		1																1			2
寬 骨	l							1		1			1				1					4
大 腕 骨	r						1	1		1												3
距 骨	l					1			1								1					3
	r						1															1
距 骨	r							1														1
踵 骨	l						1			2							1					4
	r							3						1								4
足 根 骨	r						1															1
	l						1															1
中 足 骨	r							2														2
	?	1						1		1			1			1		1				6
中 手 中 足 骨	?							2		1	1											4
基 節 骨			2				1	2		1												6
中 節 骨		1					1	1	1				1							1		6
末 節 骨							1															1
環 椎	1						1	1							1							4
軸 椎							1		1													2
頸 椎							1		1													2
胸 椎				1						1												2
腰 椎					1									1	1			1				4
仙 骨							1								1							2

第13表 シカ上顎骨・下顎骨および遊離歯一覧表

上・下 時期 資料番号		歯式	r									ℓ								
			M <sub>3</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>1</sub>	C	I <sub>3</sub>	I <sub>2</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>3</sub>	I <sub>2</sub>	I <sub>1</sub>	C	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	M <sub>1</sub>
上顎骨	攪乱層	9	M <sub>3</sub>																	
		20	M <sub>2</sub> M <sub>1</sub>																	
下顎骨	後期前葉	12	M <sub>2</sub> (M <sub>3</sub> )																	
下顎 遊離歯	後期中葉	17	1																	
		31										1			1					
	攪乱層	7										1								

第14表 小動物部位別數量表

種 部位		時期 資料番号	後期前葉			後期中葉	攪乱層						總計
			11	26	32	17	3	6	7	8	23	24	
イヌ	下顎骨	ℓ								1			1
	上腕骨	ℓ					1						1
	第2中手骨	r									1		1
	脛骨	r	1				1	1	1				4
	跗骨	r									1		1
環椎								1				1	
クサギ	下顎骨	r				2							2
	下顎第2小白歯	ℓ		1									1
	下顎第1大臼歯	ℓ										1	1
	環椎				1								1
アナグマ	下顎犬歯	ℓ			1								1
	桡骨	ℓ							1				1
	尺骨	ℓ				1			1				2
		r										1	1

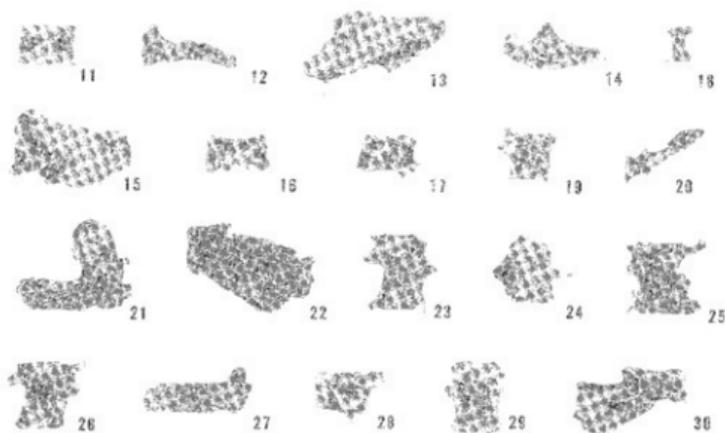
第15表 小動物下顎骨一覧表 (第11表註参照。小文字は乳歯を示す)

種名	時期	資料番号	左右	部位
イヌ	攪乱層	8	ℓ	$m_2(m_3)m_4(M_1)$
タヌキ	後期中葉	17	r	$(M_1P_4) P_3P_2(P_1C)$
			r	$(P_4 \sim C)$

第16表 陸棲哺乳類遺体の検出頻度

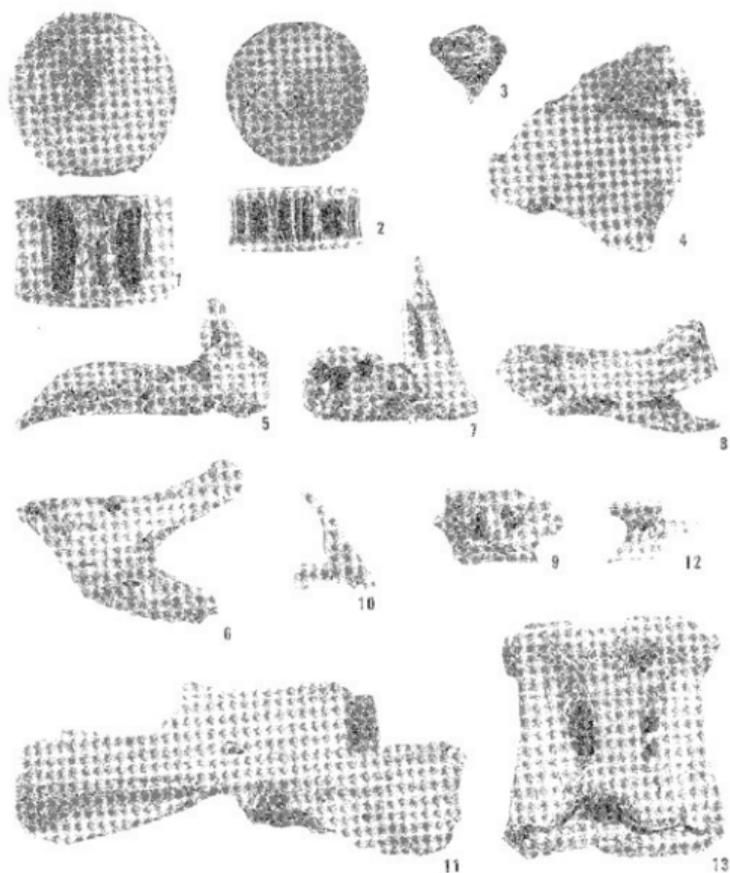
種名	数量	%
イヌ	9	4.31
タヌキ	5	2.39
アナグマ	5	2.39
イノシシ	82	39.23
シカ	108	51.67
計	209	99.99





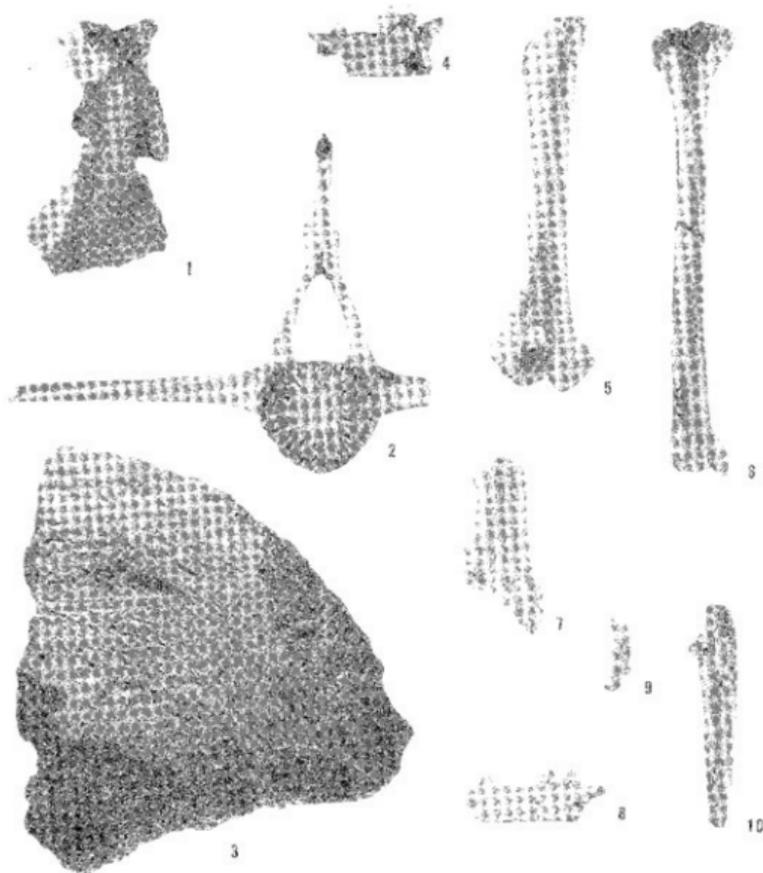
図版 1 骨角器および動物遺体 1 (縮尺, 1・2: 3分の2, 3~30: 5倍)

1・2: へら状骨製品, 3: アカウニ殻板, 4: 同鞘, 5: パフンウニ殻板, 6: 同鞘, 7: ウニ類上生骨 1, 8: 同中生骨, 9: 同顎骨 r, 10: 同歯, 11: サメ目脊椎骨, 12: マイワシ主上顎骨 1, 13: 同歯骨 r, 14: 同関節骨 r, 15: 同主鯨蓋骨 r, 16: 同第 1 脊椎骨, 17: 同第 2 脊椎骨, 18: カタクチイワシ脊椎骨, 19: ニシン科脊椎骨, 20: 同尾部棒状骨, 21: スズキ前上顎骨 1, 22: マアジ歯骨 1, 23: 同脊椎骨, 24: アジ科鰓鱗, 25: イサキ脊椎骨, 26: ベラ科脊椎骨, 27: マサバ前上顎骨 1, 28: 同歯骨 r, 29: 同脊椎骨, 30: メバル歯骨 r.



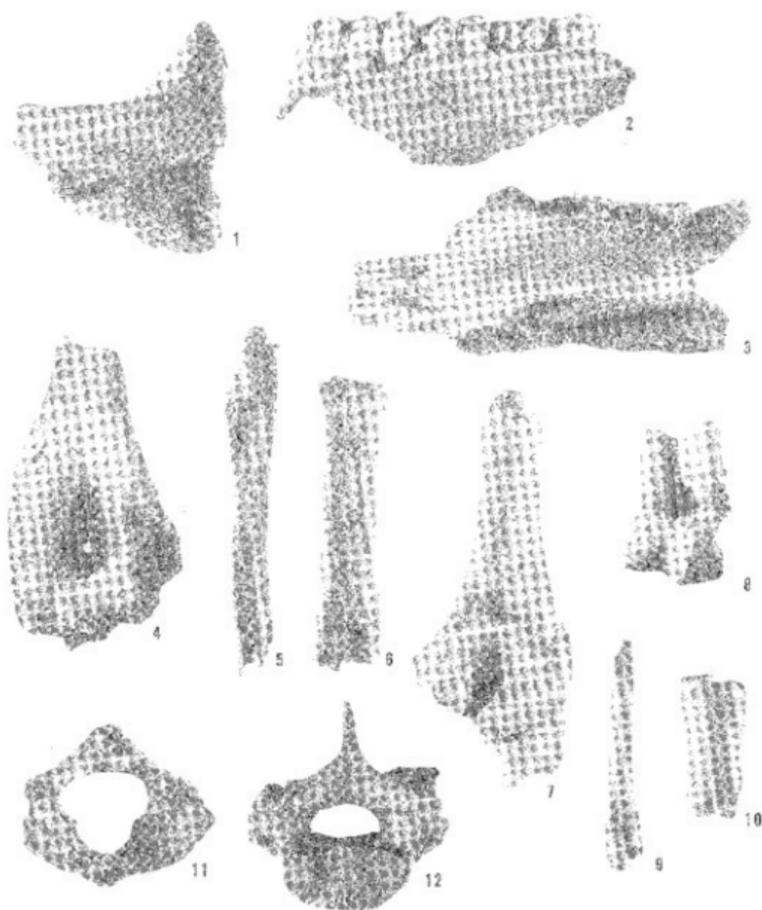
図版2 動物遺体2 (縮尺, 10: 5倍, 他は実大)

- 1: サメ目脊椎骨, 2: ネズミザメ科脊椎骨, 3: ホラ主鰓蓋骨1, 4: スズキ主鰓蓋骨1,  
 5: マダイ前上顎骨1, 6: 同歯骨1, 7: クロダイ前上顎骨1, 8: 同歯骨1, 9: タイ科  
 脊椎骨, 10: ベラ科前上顎骨1, 11: メカジキ亜目脊椎骨, 12: ソウダカツオ属脊椎骨, 13:  
 マグロ属脊椎骨.



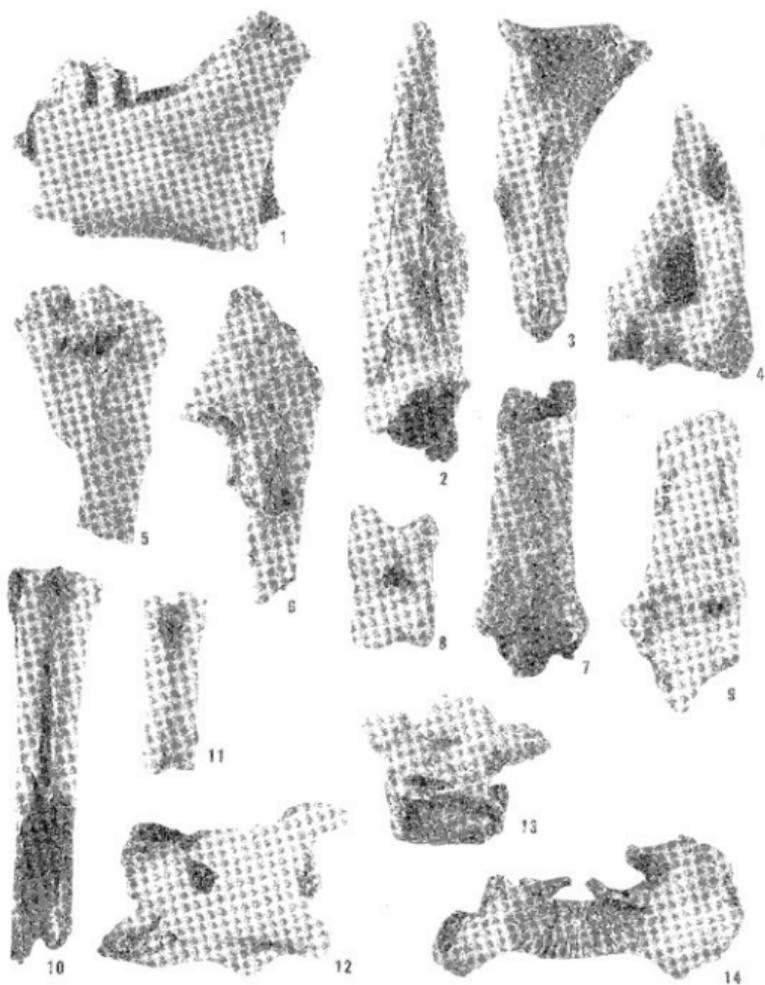
図版3 動物遺体3 (縮尺, 3分の2)

1:イルカ類肩胛骨r, 2:同脊椎骨, 3:クジラ類脊椎骨, 4:イヌ下顎骨1, 5:同上腕骨1, 6:同脛骨r, 7:同踵骨r, 8:タヌキ下顎骨r, 9:アナグマ下顎犬歯1, 10:同尺骨1.



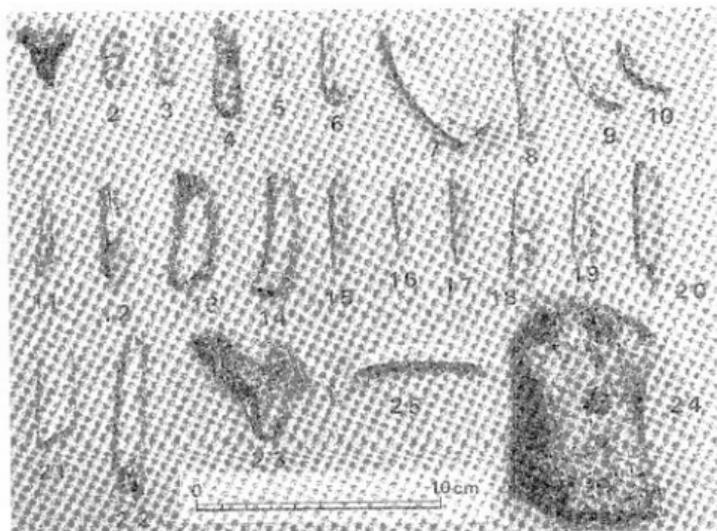
図版4 動物遺体4 (縮尺, 3分の2) イノシシ

1: 頭頂骨+後頭骨, 2・3: 下顎骨, 4: 上腕骨1, 5: 尺骨r, 6: 第4中手骨1, 7: 寛骨1, 8: 距骨1, 9: 第2中足骨1, 10: 基節骨, 11: 環椎, 12: 腰椎.



図版 5 動物遺体 5 (縮尺, 3分の2) シカ

- 1 : 下顎骨, 2 : 角, 3 : 肩胛骨 1, 4 : 上腕骨 1, 5 : 橈骨 1, 6 : 尺骨 1, 7 : 脛骨 1,  
 8 : 距骨 r, 9 : 跗骨 r, 10 : 中足骨 r, 11 : 跖骨, 12 : 頸椎, 13 : 腰椎, 14 : 仙骨.



図版 6 骨角牙器・貝輪 ——番号は第2図に一致——

(諫文報第5集より転載)

文化振興費

諫早市文化財調査報告書第10集

有喜貝塚

昭和63年6月1日

発行所 諫早市教育委員会  
諫早市東小路町1番地  
諫早印刷株式会社  
諫早市祝田町20番26号

